

エーゲ海の思い出

四組 今道周雄

二〇一八年一〇月友人と共にエーゲ海・アドリア海クルーズに出かけた。

嘗て亡き友吉田君が行こうと誘ってくれた場所である。ベネチアから船に乗り、イタリアのバーリ、ギリシャのクレタ島・ミコス島。コルフ島を経てクロアチアのドブロクニクへ行き、ベネチアへもどる八日間の旅であった。

● 幾たびか旅に行かむと語りしが叶わぬ夢となりし君

ヨーロッパへ妻共々旅をしたいと語っていたが、次第に病に蝕まれその夢は果たすことができなかつた。

● 亡き友の形見を身につけ巡り来しエーゲの海の果てしなき青さよ

形見に頂いた品を身につけ、せめて潮の香りだけでも味わつて貰いたいと願つたが、黄泉の国からもどらぬ限り無理な話。果てしない青い海は茫々として前途に拡がるばかり。

● 妻と子と友に恵まれ生きてたるを青海に向かい感謝ささげる

家を離れ日常の雑事から開放されると、いかに自分が周りの人々から支えられて生きて来たかを顧みる余裕ができた。

● 恋慕う貴紳らつごつコルフ島エリザベートの孤独はいや増す

ハプスブルグ帝国最期の皇妃エリザベートが夏を過ごす離宮をコルフ島に建てた。絶世の美女であったが気の染まぬ宮廷に溶け込むことが出来ず、離宮で孤独を囲つていたという。ギリシヤ沿岸の小さな島は暗殺という悲劇に見舞われる皇妃の唯一の慰めの場であったようだ。

● 赤糸を王の娘は与えたり迷宮逃れ生きて帰れと

テーセウスは牛頭の怪物ミノータウルスを退治するためにクレタ島の迷宮に入った。王の娘アリアドネーは赤い糸ひと巻きと一振りの短剣を彼に与え、テーセウスは短剣で怪物を倒し、糸をたどつて迷宮を抜け出すことができたという。

● 懐しき神話の海はかわらねど今漂うは国捨てし人

エーゲ海は、アフリカからヨーロッパを目指して小舟で海を渡ろうとする難民で一杯だという。幸い航海中に難民のボートに遭遇することはなかったが、エーゲ海は古代から近代に至るまで、数知れぬ戦いの場となり、数知れぬ人々を飲み込んだのだ。